

2021年度事業活動報告書

(2021年4月1日～2022年3月31日)

特定非営利活動法人 iCare ほっかいどう

1、特定非営利活動に係る事業

(1) 意思伝達装置に係る支援事業

- ① 患者訪問支援：札幌市内、札幌市以外合わせて約100名の患者やご家族から相談があり、訪問支援を実施した。前年度から続くコロナ禍で、今年度も施設や病院への訪問支援では多くの制限が発生。前月には訪問可能だったが、施設や病院内の病棟でコロナが発生すると翌月からは数カ月以上に渡って受け入れ制限が続くなど、安定したサポートができなかった。
- ② 支援者支援：会場、リモート、ハイブリットにおいて研修会を実施。中でもリモートにおいては、支援者、患者の区別なく受講でき、患者も移動を伴わないため気軽に参加できた。支援者においても、病院勤務終了後に病院向け研修会をリモートで実施したところ好評だった。
- ③ 大学授業：コロナ禍ではあったが、2大学の作業療法学科で意思伝達機器に関する授業を実施できた。また、ある大学では作業療法学科2クラスと理学療法学科1クラスの合同実習を行い、感染対策に配慮しながら体育館を借りて108名の学生に対して意思伝達装置の体験授業を実施できた。しかし、例年実施してきた在宅患者を訪問する地域作業療法実習は、10代20代に感染が広がった時期と重なり、3大学においてすべて中止した。全体として、例年通りの実施とは言えなかったものの、道内のコミュニケーション支援に関する現状について説明できたと思われる。
- ④ 患者会支援：日本ALS協会北海道支部が定期的に行う運営委員会などにALS患者がリモートで参加し、会議をハイブリットで実施できるよう技術協力を開始。(2021年4月～現在)
- ⑤ 高校生卒後の生活環境構築：養護学校自活教諭からの相談で、寮生活を行う重度脳性麻痺の高校3年生の卒後の生活環境を整える会議に参加(秋～)。スイッチと視線で環境制御できるように構築(3月末)。
- ⑥ iCare主催ラジオ放送：毎月第4土曜日に放送されているコミュニティFM三角山放送局「ALSのたわごと」の新パーソナリティとして、元札幌交響楽団コンサートマスターの大平まゆみさんが自分の声ソフト「ボイスター」で登場。2022年1月～現在。
- ⑦ 共同研究：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構が助成する「課題設定型産業技術開発費助成金(課題解決型福祉用具実用化開発支援事業)」の一環として、株式会社ヒューマンテックシステムと共同研究を実施。iCare ほっかいどうは候補者選出・支援・計画作成を担当。

(2) 放課後デイサービス事業

「放課後デイばおぼぶ」は丸6年が経過しました。前年度1月から未就学児の受け入れを始めたこと、人工呼吸器を使っている子どもたちを受け入れるようになったことなどから、大きく利用が増えました。現在は毎日4～5名の利用があります。それぞれの医療的ケア度も高く、スタッフ、とりわけ看護師の数も大きく増えました。

暖かい日には「白い恋人パーク」などへの散歩も積極的に行いました。スイッチや視線入力機器にも取り組んでいます。とりわけ視線入力への保護者の期待は大きく、短い時間ですが極力取り組むように努力しています。また、季節にあわせた制作物(母の日のプレゼント等)もスイッチを使ってミシンを動かすなど工夫をこらしました。

新型コロナウイルス感染症の影響は昨年度とほぼ変わらず行事やイベントができないことは本当に残念です。保護者に活動の様子を見てもらう機会がないことから、日々の活動を撮影してYouTubeとして編集して保護者限定で公開しています。

(3) 情報収集、情報提供及び調査研究事業

該当なし

2、その他の事業

該当なし